

# 平和の鐘

## 入山崎を歩く

### 匝瑳探訪

— 63 —

市内には入山崎と南山崎、東小笹と西小笹というように上の文字は異なりますが下が同一の地区名があります。これらはいずれも、江戸時代初期に村の支配者が変わったために村が分けられたことによるものです。

江戸時代の1635年に山崎村が多古藩領となった際に、入山崎村と南山崎村とに分けられたと考えられます。それ以前、1590年に多古藩1万石の初代藩主に保科氏になった時点で、山崎村が成立したとみて差し支えないで

しょう。

集落は、金蓮寺や稲荷神社のある台地上と、水田に面した平坦地に家並みが帯のように広がっています。稲荷神社は明治時代から村社となりましたが、隣接する天之御中主神社は明治以前は「妙見社」とよばれ、そばに椎名姓が存在するので中世千葉氏の系譜につながるものでしょう。

1698年に金蓮寺境内に建てられた題目塔には、「山崎村」講中と刻まれています。分村から60年余り経っても、村びとの生活には同一村意識

ました。

同寺の歴史を調べますと、歴代住職の墓塔が少ないことに気付きます。これは江戸時代、中村檀林(多古町)で学んだ僧がこの寺に入ったのちに他寺へ移ったためでしょう。市内には、第二次世界大戦・太平洋戦争で梵鐘(釣り鐘)を供出したため、鐘のない鐘楼(釣り鐘堂)だけの寺院があります。

ひっそりとした金蓮寺境内の鐘楼には、梵鐘が懸かっています。この鐘は、平成4年8月に寺の隣に住む故椎名慶夫さん(平成20年8月没)ご家族が寄進したものです。椎名さんは著書『五十年の想い』の中で、「私は、親父を始め、戦死した人への慰霊をしたいと考えておりました。結局自分の菩提寺に梵鐘を寄進させてもらいました。」と述べています。そして、鐘に「南海の孤島に散りし友思う心を鐘に永久に託さむ」と自らの短歌を刻みました。この鐘は毎朝夕に突かれています。この鐘を「平和の鐘」と呼んでもいいのではないのでしょうか。

毎朝夕に突かれる金蓮寺の鐘

があり、その後金蓮寺本堂建設なども両村の檀家が協力しています。金蓮寺には七面様がまつられ、1720年に書かれた縁起書や、江戸時代後期にはお札が刷られるなど安産信仰の広がりを見せ

